

# LSV 2030

LINTEC SUSTAINABILITY VISION

Stage 2

## 新中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」

(2024年度～2026年度)



2024年5月15日  
リンテック株式会社

LINTEC  
SUSTAINABILITY  
VISION

LINTEC Corporation

# 2030

**前中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り**

**新中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」**

**資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応**

**前中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り**

新中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

# 前中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り

## 長期ビジョン

### 「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030」(略称：LSV 2030)

#### 基本方針

イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する

#### 重点テーマ

1. 社会的課題の解決
2. イノベーションによる企業体質の強靱化
3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

2021  
年

2030  
年

2029年度  
財務指標

売上高営業利益率  
12%以上

ROE  
10%以上



中期経営計画

LSV 2030 – Stage 1

(2021年度～2023年度)

中期経営計画

LSV 2030 – Stage 2

(2024年度～2026年度)

中期経営計画

LSV 2030 – Stage 3

(2027年度～2029年度)

「LSV 2030」の実現に向けたマイルストーンとして3か年ごとの中期経営計画を策定・推進

# 前中計「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り

## 1. 社会的課題の解決

### E 環境

### Stage 1 の主な活動実績

#### 脱炭素社会の実現への貢献

- CO2排出量削減目標：2030年までに 2013年度比 50%以上  
2020年度実績 20%削減 / 2023年度実績 51%削減

#### 循環型社会の実現への貢献

- 環境配慮製品の拡充、製品の無溶剤化の促進
  - ⇒ PET製容器と同質素材を使用したモノマテリアルラベル素材の開発  
(Labelexpo Europe 2023 ラベルインダストリーグローバルアワードを受賞)
  - ⇒ シール・ラベル用粘着製品の無溶剤化率  
2020年度実績 77% / 2023年度実績 85%
  - ⇒ 剥離紙の無溶剤化率  
2020年度実績 56% / 2023年度実績 66%
- 剥離紙リサイクルシステムの構築に向けた取組みスタート

#### PRTR法への対応

- VOC（揮発性有機化合物）の大気排出抑制（2030年までにゼロ）
  - ⇒ トルエン、キシレンなどの有機溶剤の取扱量削減および  
溶剤処理装置による大気排出量の削減
  - トルエン取扱量 2020年度 6,614t / 2023年度 5,461t
  - トルエン大気排出量 2020年度 399t / 2023年度 341t

#### 生物多様性の保全への貢献

- 国内外拠点での植樹活動や海岸などの清掃活動の実施
- 熊谷工場での在来種の育成に影響を与える侵略的外来種の排除および適切な在来種の保護活動

# 前中計「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り

## 1. 社会的課題の解決

### S 社会

### Stage 1 の主な活動実績

#### 人権の尊重

- ・ リンテックグループ人権方針の制定
- ・ 従業員サーベイの実施およびアクションプランの作成と改善活動の推進

#### ステークホルダーへの情報開示とコミュニケーション強化

- ・ マルチステークホルダー方針の制定
- ・ サステナビリティ経営に関する情報開示
  - ⇒ サステナビリティ委員会の発足(5委員会、5分科会で構成)
  - ⇒ サステナビリティレポートや統合報告書の充実

#### 働き方改革の推進

- ・ ワークライフバランス向上に向けた制度の導入
  - ⇒ 65歳定年制、テレワーク制度の見直し、キャリアリターン制度、時間有給休暇制度
- ・ ダイバーシティの推進
  - ⇒ 障がい者雇用率向上、男性育児休暇の取得促進など

#### 品質・お客様第一主義の徹底

- ・ パートナーシップ構築宣言の制定
- ・ 各事業年度の行動指針に「お客様の期待を超える製品とサービスの提供」を掲げ、グループ全社員に周知徹底

# 前中計「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り

## 1. 社会的課題の解決

### G ガバナンス

### Stage 1 の主な活動実績

#### コーポレートガバナンスの強化

- ・コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示
- ・グループガバナンスにおける重要事項についての申請・決裁と報告が適切になされる体制の整備

#### 取締役会の実効性のさらなる向上

- ・取締役会実効性評価（PDCA）を通じた経営の高度化
- ・取締役・執行役員へのトレーニングを実施
- ・資本コストと株価を意識した経営の実現への取り組みを検討

#### 適切な情報開示と透明性の確保

- ・経営情報および決算情報に関する重要情報・有用情報は経営会議にて報告され、取締役会にて承認・決定の上、開示
- ・株主・投資家などすべてのステークホルダーに対し、開示情報を適切かつ公正に伝達

#### 株主・投資家との建設的な対話

- ・国内の機関投資家・証券アナリストに対して、半期ごとの決算説明会の開催に加え、四半期ごとにIRミーティングや取材対応を実施
- ・海外機関投資家に対するオンラインミーティングの開催や証券会社主催の国内IRイベントへの参加

# 前中計「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り

## 2.イノベーションによる企業体質の強靱化

	Stage 1 の主な活動実績
<b>DXによる設計・開発・製造・物流・業務プロセスの変革</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ DX推進プロジェクト「LDX2030」発足。業務改革の推進およびデジタル人材育成を実施</li><li>・ デジタル・AI活用による業務プロセス（開発・生産・販売）の改革</li></ul>
<b>ビルド&amp;スクラップによる省エネ、高品質、高効率、省人化を目的とした新規生産設備の導入</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ スマートファクトリー化に向けた生産設備導入</li><li>・ 脱溶剤、FDA規格適合にも対応するホットメルト粘着剤塗工設備導入</li><li>・ コージェネや太陽光発電など温室効果ガス削減対応設備導入</li></ul>
<b>生産プロセス革新によるコスト競争力の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 製品の高機能化と省エネに寄与する抄紙機インライン設備導入</li><li>・ 国内外における生産設備の高度化</li></ul>
<b>低成長・不採算事業の構造改革とグループ会社の経営健全化</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 価格改定の実施</li><li>・ 不採算製品の撤退</li><li>・ 国内外における調達や生産の合理化の推進</li></ul>
<b>強固な財務基盤の維持と資本効率の向上</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 資産効率の改善に向けた事業部門別バランスシートを作成・活用</li><li>・ 株主還元として配当方針の見直しおよび自己株式の取得</li><li>・ PBR1倍超えに向けた施策を発表</li></ul>

# 前中計「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り

## 3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

	Stage 1 の主な活動実績
技術革新による新製品・新事業の創出	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 次世代半導体の微細回路形成に欠かせない防塵材料 EUV露光機用CNTペリクルの要素技術を確立</li><li>・ 先端半導体後工程におけるパッケージング技術に関わる新たなテープや装置の製品化や独自プロセスの開発のため、実装技術開発室を開設</li><li>・ 持続可能なスマート社会に貢献する製品開発「Welsurt」ブランドの立上げ</li></ul>
戦略的投資の拡大と機動的M&A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ エレクトロニクス市場の成長に向けた積極的な設備投資 (積層セラミックコンデンサ関連テープ塗工設備、半導体関連粘着テープ塗工設備)</li><li>・ 北米での粘着製品シェア拡大に向けた積極的投資 ⇒ デュラマーク社、スピネカー社、ラベルサプライ社買収による生産・販売能力の増強</li><li>・ アジアにおける粘着製品販売強化 ⇒ インドネシア・ムルティヤサ社の買収</li></ul>
さらなるグローバルプレイヤーへの飛躍	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 海外売上高比率: 2020年 50% / 2023年 61%</li></ul>

# 前中計「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り 業績推移

	2023年度 〈最終年度〉 当初目標	2021年度 〈1年目〉 実績	2023年度 〈最終年度〉 目標 変更後	2022年度 〈2年目〉 実績	2023年度 〈最終年度〉 実績
売上高 (億円)	2,550	2,568	3,000	2,846	2,763
営業利益 (億円)	210	216	240	138	106
親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)	140	166	170	115	52
売上高営業利益率	8%以上	8.4%	8%以上	4.8%	3.8%
ROE (自己資本当期純利益率)	7%以上	8.2%	8%以上	5.3%	2.3%

## 【Stage 1 期間中の業績概要】

- 1年目 : 売上高・利益ともに過去最高を記録し、当初掲げた最終年度の経営目標を前倒しで達成したことから、最終年度の経営目標を上方修正。
- 2年目 : 電子・光学関連製品や他の製品についての急激な受注減少があったほか、原燃料価格や物流費の高騰影響を大きく受けたことで、収益面では厳しい結果となった。
- 最終年度 : 価格改定や円安効果に加え、第3四半期以降、半導体・電子部品関連製品やシール・ラベル用粘着製品を中心に受注は回復傾向にあったものの、上期の不振をカバーするまでには至らず、極めて厳しい結果となった。

# 前中計「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り セグメント別業績推移

(単位：億円)		2023年度 ＜最終年度＞ 当初目標	2021年度 ＜1年目＞ 当初実績	2023年度 ＜最終年度＞ 目標 変更後	2022年度 ＜2年目＞ 実績	2023年度 ＜最終目標＞ 実績
		売上高	印刷材・産業工材関連	1,380	1,324	1,645
印刷・情報材事業部門	1,070		1,013	1,290	1,400	1,332
産業工材事業部門	310		311	355	333	358
電子・光学関連	830		914	985	781	739
“バンス”マテリアル事業部門	640		674	780	615	600
オプティカル材事業部門	190		240	205	166	139
洋紙・加工材関連	340		330	370	332	334
洋紙事業部門	155		153	165	161	153
加工材事業部門	185		177	205	171	181
計	2,550		2,568	3,000	2,846	2,763
営業利益	印刷材・産業工材関連	30	14	35	30	▲11
	電子・光学関連	154	192	190	125	117
	洋紙・加工材関連	26	10	15	▲17	0
	計	210	216	240	138	106

前中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り

**新中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」**

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



# 新中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」

## LSV2030 重点テーマ

1. 社会的課題の解決
2. イノベーションによる企業体質の強靱化
3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

2021  
年

2030  
年



中期経営計画  
LSV 2030 – Stage 1

中期経営計画  
LSV 2030 – Stage 2

中期経営計画  
LSV 2030 – Stage 3

2026年度 財務指標  
売上高営業利益率 8%以上  
ROE(自己資本当期純利益率) 8%以上

2029年度 財務指標  
売上高営業利益率 12%以上  
ROE(自己資本当期純利益率) 10%以上

「LSV 2030」の実現に向けたマイルストーンとして3か年ごとの中期経営計画を策定・推進

## 1. 社会的課題の解決

### E 環境

### Stage 2 の主な活動

#### 脱炭素社会の実現への貢献

- CO2排出量の削減目標変更  
(当初目標2030年 2013年度比50%以上)  
⇒ Stage 1 実績51%  
Stage 2 目標67%以上 / Stage 3 目標75%以上

#### 循環型社会の実現への貢献

- 環境配慮製品の拡充
- 粘着剤、剥離剤の無溶剤化のさらなる推進
- 剥離紙リサイクルシステムの実運用

#### PRTR法への対応

- VOC（揮発性有機化合物）の大気排出抑制（2030年までにゼロ）  
トルエン、キシレンなどの有機溶剤の取扱量削減および  
溶剤処理装置による大気排出量のさらなる削減  
⇒ 低濃度溶剤ガス濃縮装置など処理効率の高い設備の導入  
⇒ 剥離剤処方や粘着剤の無溶剤化による取扱量の削減

#### 生物多様性の保全への貢献

- 国内外拠点での植樹活動や海岸などの清掃活動を継続実施
- 熊谷工場での「森づくり」のための植樹・植栽などの推進

# 新中計「LSV 2030 – Stage 2」

## 1. 社会的課題の解決

### S 社会

### Stage 2 の主な活動

#### 人権の尊重

- ・ 人権やハラスメントに関する従業員のさらなる意識向上に努める
- ・ サプライヤーへのアンケートおよび監査の充実・実施
- ・ 従業員サーベイの継続、改善活動の実施

#### ステークホルダーへの情報開示とコミュニケーション強化

- ・ サステナビリティ経営に関する情報開示  
⇒ サステナビリティレポートや統合報告書のさらなる充実

#### 働き方改革の推進

- ・ 社員のモチベーション向上に向けた組織改善・職場環境改善
- ・ 人材の多様性確保  
⇒ 障害者のサポート担当者を設けた各事業所での障がい者の雇用促進など  
⇒ 海外サクセッションプランを通じた外国人人材の育成  
⇒ 女性のためのキャリアアップ研修の充実・実施
- ・ 65歳定年制の国内グループ会社への展開

#### 品質・お客様第一主義の徹底

- ・ 「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動の徹底
- ・ 行動指針に「お客様のニーズを先取りした他社の先を行く製品開発とサービスの提供」を掲げ、グループ全社員に周知徹底

## 1. 社会的課題の解決

### G ガバナンス

### Stage 2 の主な活動

#### コーポレートガバナンスの強化

- ・コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示
- ・グループガバナンスにおける重要事項の申請・決裁と報告の適切な運用

#### 取締役会の実効性のさらなる向上

- ・取締役会実効性評価（PDCA）を通じた経営のさらなる高度化
- ・指名・報酬委員会への諮問を通じた経営の客観性・透明性向上
- ・取締役・執行役員へのトレーニングの実施

#### 適切な情報開示と透明性の確保

- ・ESGに関連した各種評価機関・各種調査に対する情報開示
- ・サステナビリティ経営に関する情報開示の充実
  - ⇒ 株主総会招集通知、有価証券報告書、コーポレートガバナンス報告書、サステナビリティサイトやIRサイトなどでの開示

#### 株主・投資家との建設的な対話

- ・積極的な株主との対話やIR活動の推進
  - ⇒ 株主や投資家との建設的な対話や株主通信誌（WAVE）を通じた意見やアドバイスを経営層で共有し、経営に有効活用
  - ⇒ 個人・機関投資家に対するIR活動の強化
  - ⇒ リンテックホームページのIRサイトや統合報告書の充実

## 2.イノベーションによる企業体質の強靱化

	Stage 2 の主な活動
抜本的な構造改革による事業ポートフォリオの最適化	<ul style="list-style-type: none"><li>各事業の将来にわたる成長性や市場競争力、収益性を見極めた上で、ポートフォリオの再構築を図る</li><li>国内外グループ会社の経営健全化</li></ul>
QCD強化による既存事業の高収益化	<ul style="list-style-type: none"><li>ビルド&amp;スクラップによる省エネ、高品質、高効率、省人化を目的とした新規生産設備の導入</li><li>生産プロセス革新によるコスト競争力の強化</li></ul>
DXによる設計・開発・製造・物流・業務プロセスの変革	<ul style="list-style-type: none"><li>AIやIoTによるデータやデジタル技術を活用することで、業務プロセスやビジネスモデルを改革し、新たな製品やサービスの創出により競争力を強化</li></ul>
強固な財務基盤の維持と資本効率の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>事業部門ごとのバランスシートに基づいたKPIの明確化による売上債権や棚卸資産、固定資産などの回転率の向上</li></ul>

## 3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

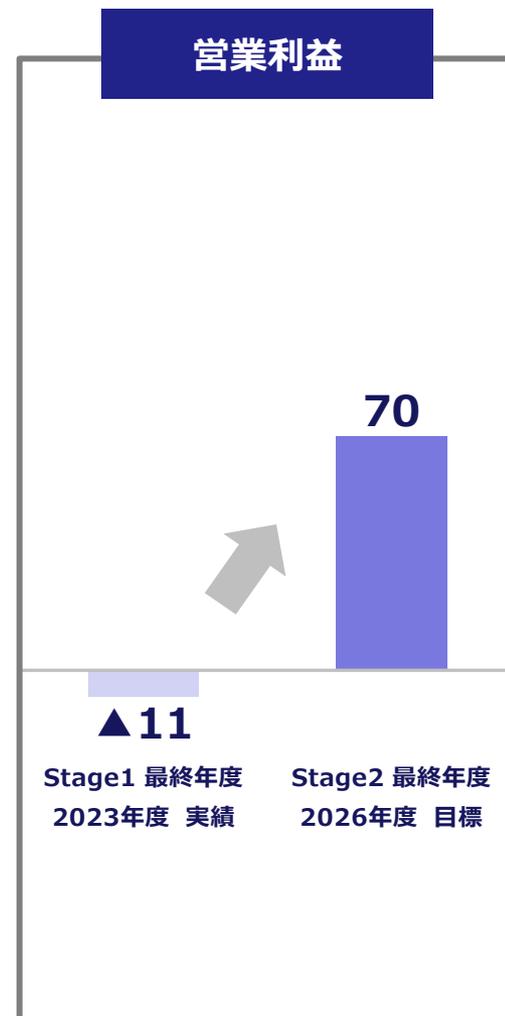
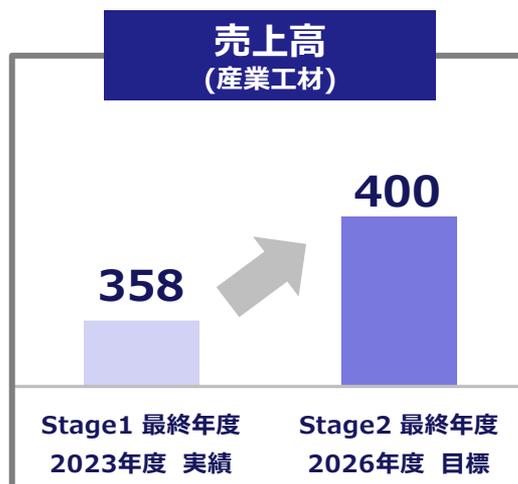
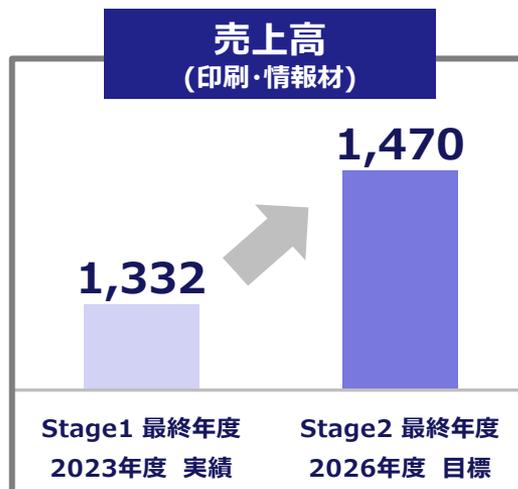
	Stage 2 の主な活動
<b>技術革新による新製品・新事業の創出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EUV露光機用CNTペリクル量産開始</li> <li>・ 先端半導体後工程におけるパッケージング技術に関わる新たなテープや装置の開発および独自プロセスの提案・デファクト化</li> <li>・ 半導体関連装置の生産能力増強</li> <li>・ 「Welsurt」ブランドの新事業スタート</li> <li>・ 新製品のさらなる創出 ⇒ 新製品売上高比率目標27% (2030年目標30%以上)</li> </ul>
<b>さらなるグローバルプレイヤーへの飛躍</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外売上高比率のさらなる向上 2020年 50% / 2023年 61% / 2026年目標 65%</li> <li>・ ローカリゼーションの確立 ⇒ 粘着紙・粘着フィルムをはじめとした現地ニーズに合わせた製品ラインナップの拡充と拡販</li> <li>・ 世界で活躍できる人材の育成</li> <li>・ M&amp;Aを含めた新たな生産拠点の獲得</li> </ul>

# 新中計「LSV 2030 – Stage 2」印刷材・産業工材関連

## 印刷材・産業工材関連 数値目標

(単位：億円)

	Stage 1 最終年度 2023年度 実績	Stage 2 最終年度 2026年度 目標	増減額 (増減率)
印刷・情報材 事業部門	1,332	<b>1,470</b>	+138 (+10%)
産業工材 事業部門	358	<b>400</b>	+42 (+12%)
売上高合計	1,690	<b>1,870</b>	+180 (+11%)
営業利益	▲11	<b>70</b>	+81 ( - %)



## 個別テーマと施策

### ● 北米やアジアでの拡販と収益向上

- 北米：買収による生産体制の増強と販路活用による事業拡大
  - ◇ 物流・食品・飲料・トイレタリー関連への粘着紙や環境配慮製品の拡販
  - ◇ ヘルスケア・工業関連などへの粘着フィルムの展開強化
- アジア：現地のニーズに合わせた製品ラインナップ拡充と拡販（インドネシア・ベトナム・インドなど）
  - ◇ 生産拠点のQCD強化による競争力の向上
  - ◇ 物流・食品・エレクトロニクス・自動車・メディカル関連などへの展開強化

### ● 地球環境との共生と循環型社会の実現に向けた取り組み

- 環境配慮製品の拡販（脱プラ、モノマテリアル、森林認証紙、ホットメルト粘着製品など）
- 使用済み剥離紙の再資源化に向けたリサイクルシステムの確立（ラベル循環協会J-ECOL）
- ブランドオーナーへの環境配慮製品の新たな用途提案による採用の活性化

### ● QCDの強化と収益拡大

- 生産設備の統廃合など、生産体制の最適化によるコスト競争力強化
- 調達材料や製品設計の見直し、品種統合によるコスト削減

## 個別テーマと施策

### ● ウィンドーフィルムのさらなる高機能化と拡販

- ▶ 自動車用ウィンドーフィルム：
  - ◇ 遮熱、透明、UVカットなどの高機能製品の開発と拡販
  - ◇ アジア（タイ・マレーシア・台湾・中国など）への高遮熱タイプの展開
  - ◇ 北米での防犯対策フィルム、フロントガラス保護フィルムの拡販
- ▶ 建物用ウィンドーフィルム：
  - ◇ オフィス・大型商業施設・公共施設などの防犯・飛散防止・省エネに貢献する製品の拡販

### ● 労働力不足の解決や生産効率の向上に貢献する新製品の開発やシステムの拡販

- ▶ リフォーム・リノベーション市場向け易施工タイプの内装材や壁装パネルの開発（施工職人不足の解決に貢献）
- ▶ ラベリング技術を駆使した自動化システムの拡販（製造現場や物流センターなどの省人化・高速化に貢献）

### ● デジタルプリント用メディアの開発・拡販

- ▶ オリジナルデザインのニーズへの対応（内装用化粧フィルム・ガラス装飾フィルムなど）

### ● 環境配慮製品の開発

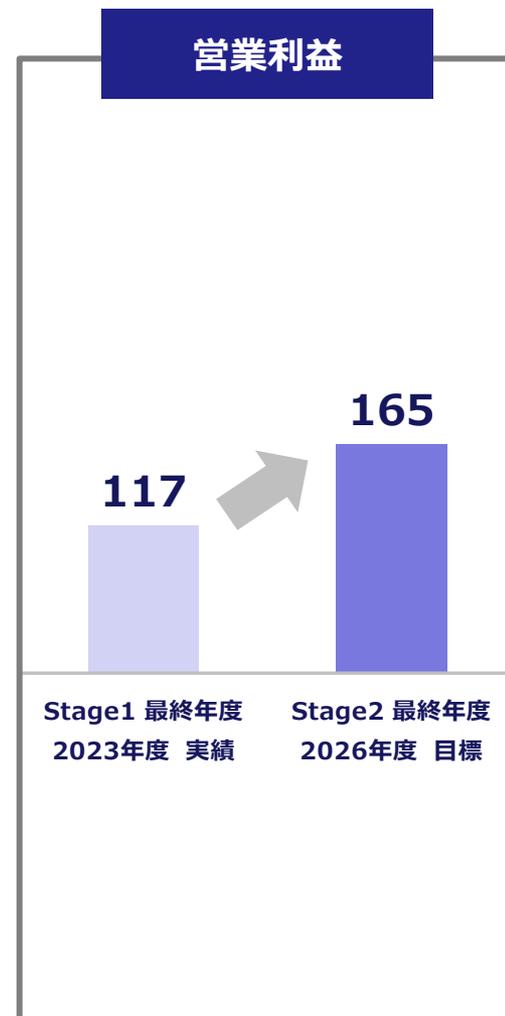
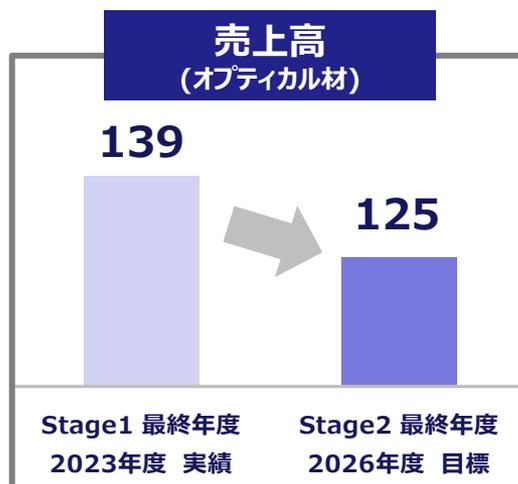
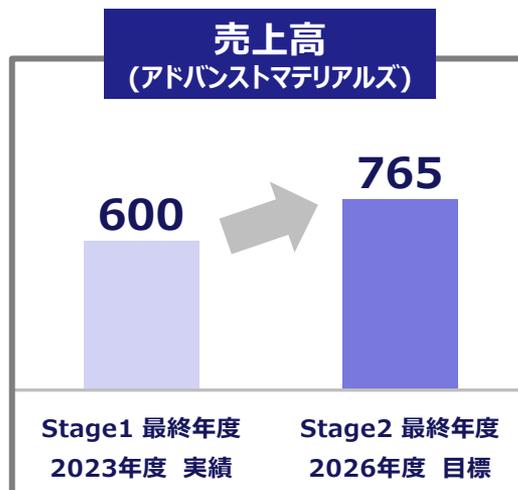
- ▶ CO<sub>2</sub>、VOC排出量削減に寄与する自動車用の塗装代替フィルム開発やラベル素材の無溶剤化
- ▶ リサイクル、リユースの高まりに対応する易剥離強粘着剤の開発
- ▶ サイン・広告・装飾用素材：リサイクル素材やバイオマス素材を用いた製品の上市

# 新中計「LSV 2030 – Stage 2」電子・光学関連

## 電子・光学関連 数値目標

(単位：億円)

	Stage 1 最終年度 2023年度 実績	Stage 2 最終年度 2026年度 目標	増減額 (増減率)
アドバンス マテリアルズ 事業部門	600	<b>765</b>	+165 (+28%)
オプティカル材 事業部門	139	<b>125</b>	▲14 (▲10%)
売上高合計	739	<b>890</b>	+151 (+20%)
営業利益	117	<b>165</b>	+48 (+41%)



## 個別テーマと施策

### ● エレクトロニクス市場の成長に向けた継続的な設備投資と需要対応

- ▶ 積層セラミックコンデンサ関連テープ、半導体関連粘着テープおよび関連装置の供給体制強化
- ▶ バックグランド用表面保護テープの拡販
- ▶ 装置フィールドサポートチームの増強による、半導体装置ビジネスの強靱化

### ● 先端半導体後工程におけるパッケージング技術に関わる新たなテープや装置、独自プロセスの開発

- ▶ 半導体パッケージング技術に関わる実装技術開発
- ▶ 新プロセス（レーザーピックアップ、TSVなど）や高密度・多積層対応など
- ▶ 車載用・パワーデバイス用半導体向け新製品の開発
- ▶ 次世代アセンブリプロセス材料の提案と拡販
- ▶ 半導体チップ偽造防止技術の確立

### ● EUV露光機用CNTペリクル量産体制の確立

- ▶ 2025年度までに第一次量産体制を確立・販売開始

## 個別テーマと施策

### ● 光学ディスプレイ関連粘着製品の展開

- ▶ ハイエンドスマートフォンなどの有機ELディスプレイ用粘着製品の競争力強化による拡販

### ● 車載用OCA\* などの新製品の開発と拡販

- ▶ 超厚膜品の生産技術確立と車載用高耐久品の開発
- ▶ 拡散、着色など複合機能化による車載用途以外への展開

\*OCA : Optical Clear Adhesive／光学透明粘着シート

### ● 光拡散フィルムの開発

- ▶ 公共施設におけるデジタルサイネージ、空間ディスプレイ、反射型LCD用途など

### ● バリアフィルムの開発

- ▶ PSC（ペロブスカイト太陽電池）など次世代太陽電池への採用
- ▶ 次世代電子ペーパーへの採用

### ● 表面処理光学フィルムの拡販

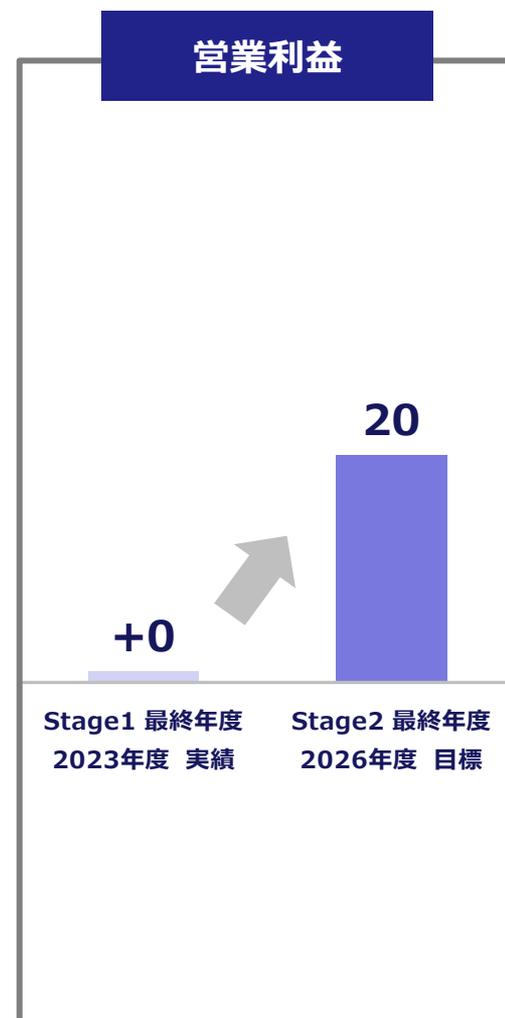
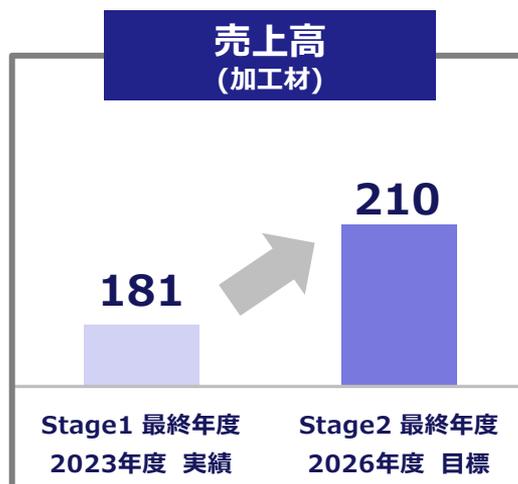
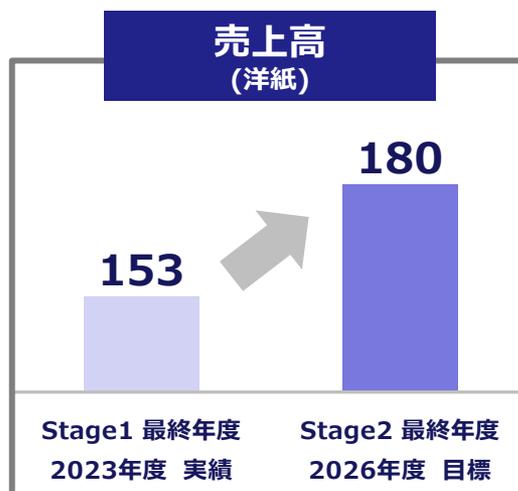
- ▶ ディ스플레이の最表面に貼る高精細低反射フィルムの拡販

# 新中計「LSV 2030 – Stage 2」洋紙・加工材関連

## 洋紙・加工材関連 数値目標

(単位：億円)

	Stage 1 最終年度 2023年度 実績	Stage 2 最終年度 2026年度 目標	増減額 (増減率)
洋紙 事業部門	153	<b>180</b>	+27 (+18%)
加工材 事業部門	181	<b>210</b>	+29 (+16%)
売上高合計	334	<b>390</b>	+56 (+17%)
営業利益	+0	<b>20</b>	+20 ( - %)



## 個別テーマと施策

### ● 耐油紙のさらなる用途展開

- 非フッ素耐油紙への完全切替
- 紙製食品容器への展開（厚物タイプ）
- 賞味期限の延長に寄与する脱酸素剤用などの新用途展開

### ● プラスチック代替高機能紙の開発・拡販

- 透明紙（半透明ファイル、半透明封筒用紙、商品の高透明包材など）
- 生分解性ヒートシール紙（冷凍食品2次包装など）
- 耐水紙（パウチ容器など）

### ● 高付加価値製品の創出

- 高機能化・省エネに寄与する抄紙機インライン設備の活用
- 塗工機、ポリラミ機などを活用した加工技術との融合

### ● 収益力の向上

- 生産体制の再構築・最適化

## 個別テーマと施策

### ● 合成皮革用工程紙の海外展開強化

- ▶ 販売体制強化によるインド・中国・北米・欧州での拡販
- ▶ 2025年完成予定の新塗工設備による海外レザーメーカー向け製品ラインナップの拡充  
(広幅工程紙の車両内装レザー用途などへの展開)

### ● 炭素繊維複合材料用工程紙の拡販

### ● シーズ型新製品の開発

- ▶ 撥水性や防滑性を付与するための工程紙の開発・拡販
- ▶ トrendを先取りする合成皮革用工程紙の新柄開発

### ● 環境配慮製品の推進

- ▶ 剥離紙・剥離フィルムの無溶剤化
- ▶ 剥離紙の脱ポリ化

# 新中計「LSV 2030 – Stage 2」 経営目標

長期ビジョンに掲げる三つの重点テーマに対する諸施策と、  
各事業部門の個別テーマの着実な実行

## Stage 2 最終年度（2026年度） 経営目標

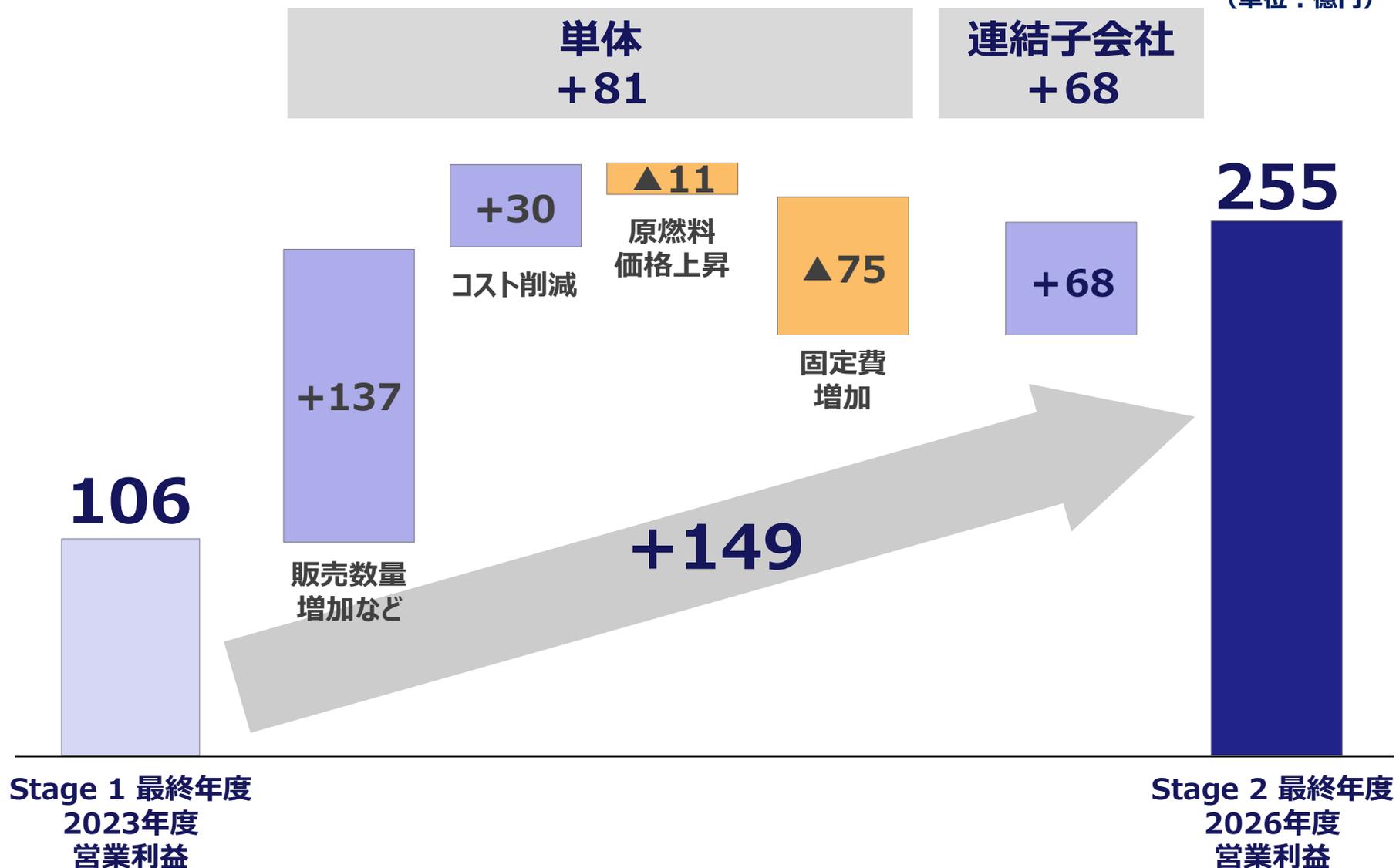
	2023年度	2026年度	増減額 (増減率)
●売上高 (億円)	2,763	3,150	+387 (+14%)
●営業利益 (億円)	106	255	+149 (+141%)
●親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	52	180	+128 (+246%)
●売上高営業利益率	3.8%	8%以上	—
●ROE (自己資本当期純利益率)	2.3%	8%以上	—

\* 想定為替レート

円/US\$ 140.00 円/1-円 147.00 円/ウォン 0.100 円/中国元 19.50 円/台湾\$ 4.35

# 新中計「LSV 2030 – Stage 2」 営業利益増減要因

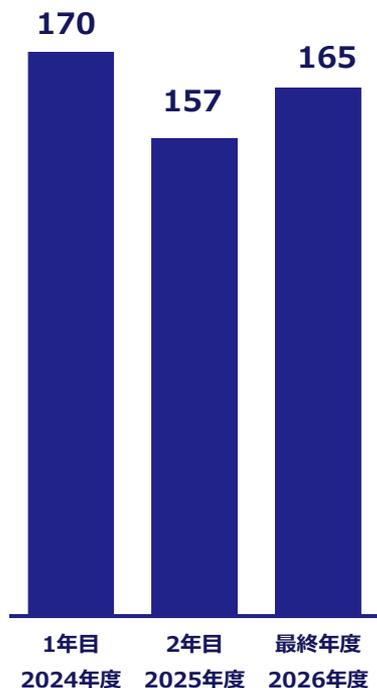
(単位：億円)



(単位：億円)

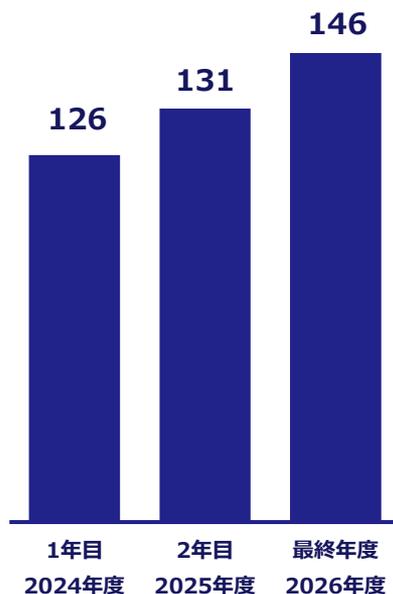
### 設備投資額

Stage 2 総額  
**492億円**



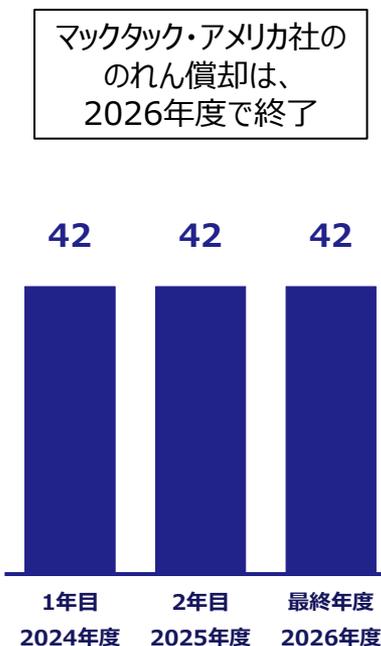
### 減価償却費

Stage 2 総額  
**403億円**



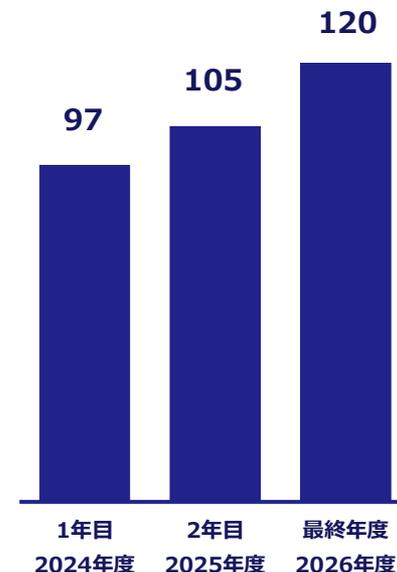
### のれん償却額

Stage 2 総額  
**126億円**



### 研究開発費

Stage 2 総額  
**322億円**



## キャッシュアロケーション（2024年度～2026年度累計）

財務基盤の強化ならびに将来の企業価値向上のための生産設備や研究開発投資などに有効活用する

Stage 2 期間中の  
キャッシュフロー  
(営業利益+減価償却費  
+のれん償却)  
約 1,300億円

外部資金調達

成長投資	設備投資ほか 約 600億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積層セラミックコンデンサ関連テープ塗工設備</li> <li>・半導体関連粘着テープ塗工設備</li> <li>・剥離紙塗工設備</li> <li>・環境関連投資</li> <li>・DX関連投資</li> </ul>
	研究開発投資 約 320億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体パッケージング技術に関わる新たなテープや装置、独自プロセスの開発</li> <li>・EUV露光機用CNTペリクル量産体制の構築</li> <li>・環境配慮製品の開発</li> </ul>
	M&Aなどの 機動的投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国・地域、新市場、新領域への展開</li> </ul>
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Stage 2 最終年度の2027年3月期までは原則として減配せず配当性向40%以上またはDOE3%を目途に配当を実施</li> <li>➢ 機動的な自己株式の取得</li> </ul>	

前中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」の振り返り

新中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」

**資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応**

## 前中計「LSV2030 Stage 1」における実績値の推移

	Stage 1		
	2021年度	2022年度	2023年度
売上高 (億円)	2,568	2,846	2,763
営業利益 (億円)	216	138	106
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	166	115	52
<b>売上高営業利益率</b>	<b>8.4%</b>	<b>4.8%</b>	<b>3.8%</b>
<b>ROE(自己資本当期純利益率)</b>	<b>8.2%</b>	<b>5.3%</b>	<b>2.3%</b>
<b>PBR(株価純資産倍率)</b>	<b>0.81倍</b>	<b>0.65倍</b>	<b>0.93倍</b>

Stage 1 ではPBRは1倍を下回る状況が続いた

新中計「LSV 2030 – Stage 2」  
最終年度経営目標の着実な達成

収益性(R)の向上

- QCD強化による既存事業の高収益化
- 抜本的な構造改革と事業ポートフォリオの最適化
- 新製品・新事業の早期立ち上げ
- DXによる開発・製造・物流・業務プロセスなどの変革

資本効率(E)の向上

- |  |           |
|--|-----------|
| ● 売上債権や棚卸資産、<br>固定資産の回転率向上<br>による資産効率の改善 | ● 株主還元の充実 |
|--|-----------|

ROE  
8%以上

企業価値  
のさらなる  
向上

継続的な  
PBR  
1倍超え

持続的成長に向けたキャッシュアロケーション

株主・投資家との建設的な対話

長期ビジョン 三つの重点テーマ

社会的課題の解決

イノベーションによる  
企業体質の強靱化

持続的成長に向けた  
新製品・新事業の創出

# ご清聴ありがとうございました

## 本資料の内容に関する注意

本資料に記載された計画や予測等は、資料作成時点での様々な前提に基づいた弊社の判断であり、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。また、今後、予告なしに変更されることがあります。